

登録コード	F3C10210	開講年度	2026				
授業科目	情報科学演習（～24F）					担当教員	寺本 彰 他
英文授業名	Computer Literacy					副担当	瀧澤 辰洋
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	化学・材料学科1年
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	
備考							
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Fカリ・化学材料，2 5 Fカリ・化学材料，2 4 Fカリ・化学材料，2 3 Fカリ・化学材料						
	【2023年度以降カリ対象】共通教育による幅広い教養と、化学・材料に関する基礎科学を理解できる能力					⇔	共通教育による幅広い教養と、化学・材料に関する基礎科学を理解できる能力のうちパーソナルコンピュータを使うコミュニケーション(電子メールの送受信、文書の作成、データの処理、発表資料の作成)ができるようになる。
	【2023年度以降カリ対象】語学力およびデータサイエンスを活用し、国内外の情報およびデータを収集・処理する能力					⇔	語学力およびデータサイエンスを活用し、国内外の情報およびデータを収集・処理することができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	この講義は化学・材料学科の24Fまでの学生が対象の講義です。 シラバス内容は基本2024年度のものです。 今年度の実施に当たっては、講義日、内容などについて履修者にメール等で直接連絡を行います。 ----- パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な利用方法を習得する。 第1－7回を寺本教員が担当し、第8－15回を滝沢教員が担当する。						
(5)授業計画	第1回： 情報リテラシーについて。メールの書き方。「フォルダ」と「ファイル」の作成、保存および編集。（教科書チャプター1および8） 第2回： インターネットを利用した情報検索の方法。（教科書チャプター8） 第3回： ワードの基本操作。文書の編集および保存。（教科書チャプター4） 第4回： ワードの基本操作。数式などの入力と編集。（教科書チャプター4） 第5回： エクセルの基本操作。計算表とグラフの作成1。（教科書チャプター5） 第6回： エクセルの基本操作。計算表とグラフの作成2。（教科書チャプター5） 第7回： パワーポイントの基本操作。プレゼン資料の作成。（教科書チャプター6） 第8回： データベースについて(その他関連するOfficeソフトウェアの紹介等)。 第9回： WEBページの作成、編集（HTMLの使用）（教科書チャプター8）。 第10回： ワードの機能（目次作成、クロスリファレンス）。 第11回： エクセルの機能：ゴールシークと行列計算。 第12回： エクセルの機能：度数分布表、数値積分。 第13回： エクセルの機能：数値微分。 パワーポイントの機能：フリーフォーム・曲線の利用、オブジェクトの順序、整列、グループ化。 第14回： 総合演習1：エクセルを用いた実験データの処理とグラフ解析、パワーポイントを用いた整理。 第15回： 総合演習2：総合演習1の続き、全体の質問、授業アンケート入力。						
(6)成績評価の方法	演習，レポート，に対する配分を演習 50%，宿題 50%とし，主に次の(1)～(5)の基準に基づいて評価する。 (1) ワードで文書の作成・編集ができる(以下，教育目標D(3)に対応)。 (2) ワードで表計算・グラフ化ができる。 (3) エクセルの結果をワードやパワーポイントに貼り付け編集ができる。 (4) エクセルで簡単な数値計算ができ，結果のグラフ化ができる。 (5) パワーポイントでプレゼン資料の作成ができる。						
(7)成績評価の基準	(1) Wordで文書の作成・編集ができる (2) Wordで表計算・グラフ化ができる (3) Excelの結果をWordやPowerPointに貼り付けて編集ができる (4) Excelで簡単な数値計算ができ，結果のグラフ化ができる (5) PowerPointでプレゼンテーション資料の作成ができる 以上の項目のうち，課題を教科書を見ながら時間をかけてできる場合は「合格水準にある」、時間をかけずにできる場合は「やや上にある」、また教科書や授業資料を見なくてもできる場合は「かなり上にある」、さらに発展的な課題でも独自のやり方を見出して，かつ短時間に解決できる場合は「卓越している」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業の最後に課題を出すので，教員の指示に従い提出すること。この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって，60時間以上の時間外学修が必要となる。						
(9)履修上の注意	毎回のレポートは必ず提出期限を守ること。						
(10)質問,相談への対応	メールにて随時受け付ける。						

(11)学生へのメッセージ	本演習で学習したことは微分積分学、線形代数学や新入生ゼミナール等で応用すると共に2年次以降の実験や演習の授業でも実践的に活用することになる。また、他の授業で学習したことをWordやExcelを用いて整理・復習し、インターネットを効果的に使うリテラシーと合わせて各自のPCを常に効率良く活用することを望む。
(12)その他	なし
【教科書】	若山芳三郎著；「学生のための情報リテラシー office 2021・Microsoft365対応」東京電機大学出版局（本体2,400円＋税）
【参考書】	指定しない